

地球環境を考えることは、 今や企業の義務。 その意識を社員一人ひとりに しっかりと浸透させていくことが 社会貢献への一番の近道です。

ユニー株式会社
代表取締役社長 前村哲路

深刻化する地球温暖化問題に対して、
レジ袋削減運動やバイオマスプラスチック容器の導入など
様々な環境活動に取り組んできたユニーは、企業として「何ができるか」「何をすべきか」を
今、改めて原点に立ち返り見つめ直しています。
小売業として携わる環境活動の意義について、また食育について、そして今後の展望について、
前村哲路代表取締役社長と百瀬則子環境部長のお二人に対談形式でお話を伺いました。

ールしていくことが、相乗効果を生むという
ことですね。

前村 その通り。双方がリンクしているこ
とで、よりお客様の声も近くなりますからね。
そういった声をどんどん吸収して、新しい
商品開発や企業活動につなげていきたい
と思っています。そうすれば、私たちがや
れること”“やらなければならないこと”
の幅が、自然と広がってくることでしょ

地域の声を聞き、 地域とともに成長する

百瀬 東海地区は、愛知万博の開催以降、
地域のみなさんが環境に深い関心を持っ
ている地区であり、ユニーとしても、地域
の方々と一緒に様々な環境活動を行って
います。特に、食育や子供たちへの環境教
育について積極的に取り組み、それらにま
つわるイベントも、年間50~60回行って
います。

前村 それらについては、もっともっと充
実していくべきだと考えています。なぜ今、
食育が企業まで巻き込んだ行政のテーマ
になっているのか？それはつまり、伝達の
消滅です。昔は自然と受け継がれてきた

ことも、時代が変わり、生活形態が変わっ
たことにより、家庭で語られなくなった。そ
れを世間に、特に子供達に伝えていくこと
は、地域のみなさんの社交場である、私た
ちの使命だと考えています。小売業として
の社会的な存在意義や価値を、こういった
ところで発揮するべきなんです。食育や
環境活動を、もっと企業活動そのものとし
て取り組み、お客様にメッセージとして伝
えていく、そしてしっかりと企業カラーを
出していく。それが、大きな力を生み出し
ていくのではないのでしょうか。

百瀬 そうですね。私たちは今まで活動
はしていても、それをお客様に上手く伝え
きれていなかったと思います。イベントに
参加されたお客様から、「ユニーさんって
そんなこともしていたの？」という声をよ
く耳にしますからね。その辺りをもっと積
極的にアピールしていかないと、お客様も
何を判断材料に企業を評価すればいいか
迷ってしまいますからね。それは逆に、お
客様に対して失礼な行為なのかもしれま
せんね。

前村 そういった意味では、私たちは少し
地域に対してコミュニケーションが不足し
ていたかもしれませんね。地域密着のドミ



ナント経営の利を生かして、もっとお客様
の身近な存在になっていくべきだと思いま
す。“地域に根ざし、地域から情報を得、地
域とともに成長していく”、そんな店づく
りを私たちは目指していきたい。

百瀬 街が、住民が誇りに思える店…です
ね？

前村 そんな店づくり、地域づくりを、従
業員一丸となってがんばっていきましょう。

百瀬 はい！今日はありがとうございました！